

認知症施策推進計画にかかる調査 結果抜粋

留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりです。

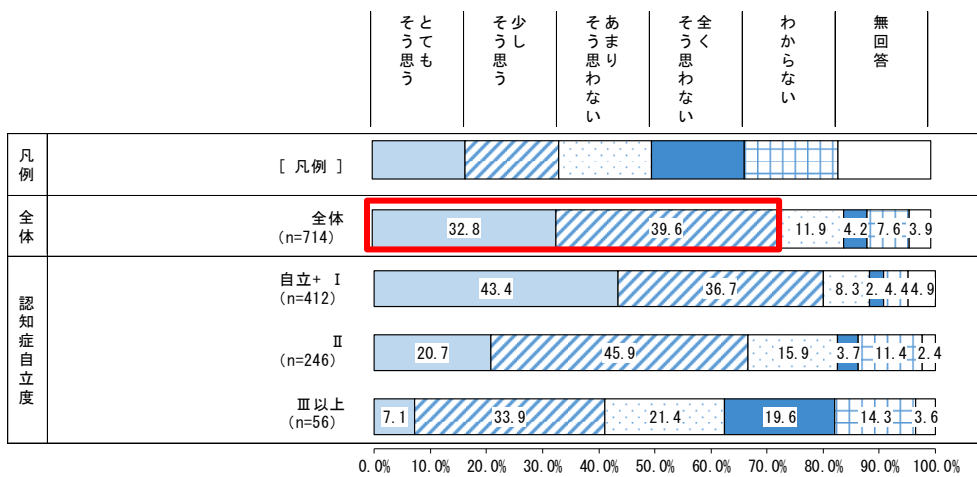
- ① 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
- ② 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
- ③ 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer =いくつでも)、3LA (3 Limited Answer=3つまで)と記載しています。また、不明(無回答)はグラフ・表から除いている場合があります。

要支援・要介護認定者ご本人様について

- C問1 あなたは、家族、友人、仲間等の誰かに自分の思いを伝えることができていると思いますか。(ひとつだけ○)

○ 自分の思いの伝達実感について、「少しそう思う」が39.6%で最も高く、次いで「とてもそう思う」が32.8%、「あまりそう思わない」が11.9%となっています。

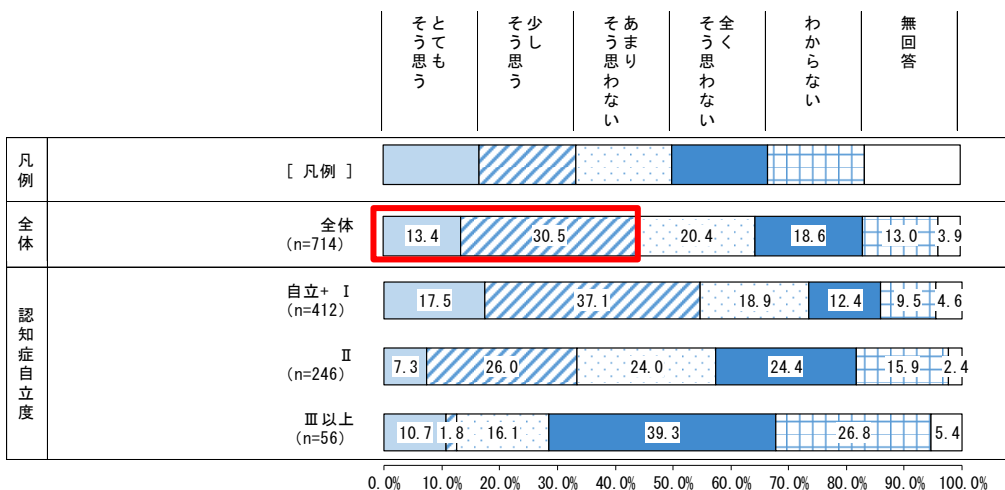
【自分の思いの伝達実感】



- C問2 あなたは、地域・家庭で何かしらの役割を果たしていると思いますか。(ひとつだけ○)

○ 地域・家庭での役割実感について、「少しそう思う」が30.5%で最も高く、次いで「あまりそう思わない」が20.4%、「全くそう思わない」が18.6%となっています。

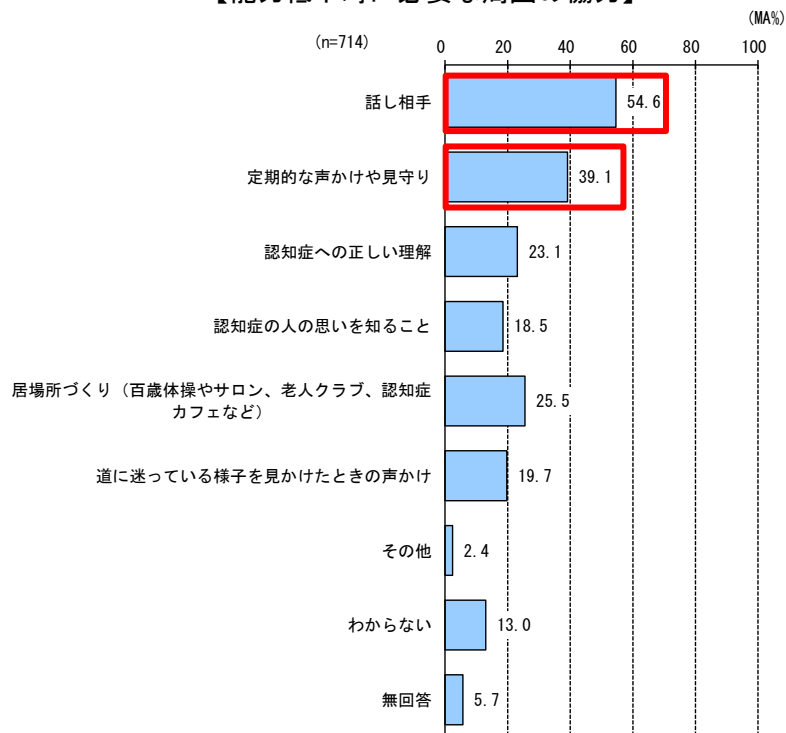
【地域・家庭での役割実感】



- C問7 あなたは、もの忘れが増えたり、判断能力が低下しても、住み慣れた地域で暮らしていくためには、周りの人からどのような協力があると助かりますか。(いくつでも○)

○ 能力低下時に必要な周囲の協力について、「話し相手」が54.6%で最も高く、次いで「定期的な声かけや見守り」が39.1%、となっています。

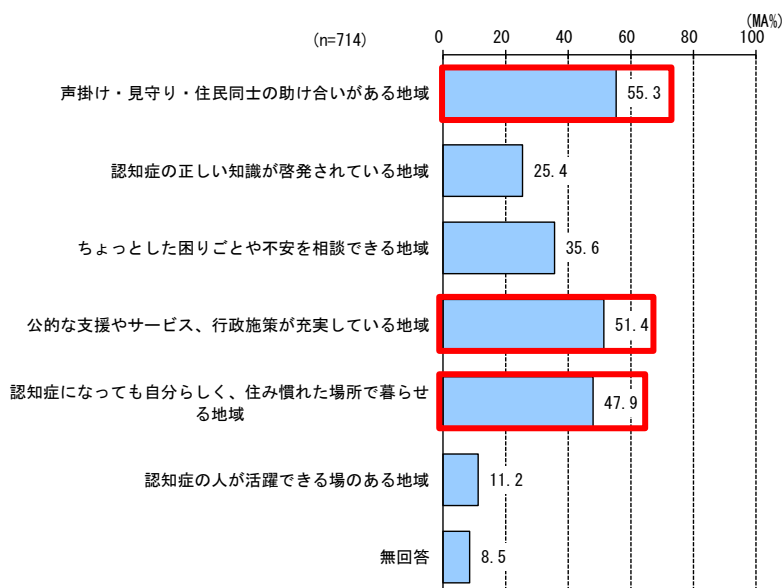
【能力低下時に必要な周囲の協力】



- C問8 あなたが、もの忘れが増えたり、判断能力が低下した場合、どのような地域ならば安心して暮らしやすいと思いますか。(いくつでも○)

○ 認知症等でも暮らしやすい地域像について、「声掛け・見守り・住民同士の助け合いがある地域」が55.3%で最も高く、次いで「公的な支援やサービス、行政施策が充実している地域」が51.4%、「認知症になっても自分らしく、住み慣れた場所で暮らせる地域」が47.9%となっています。

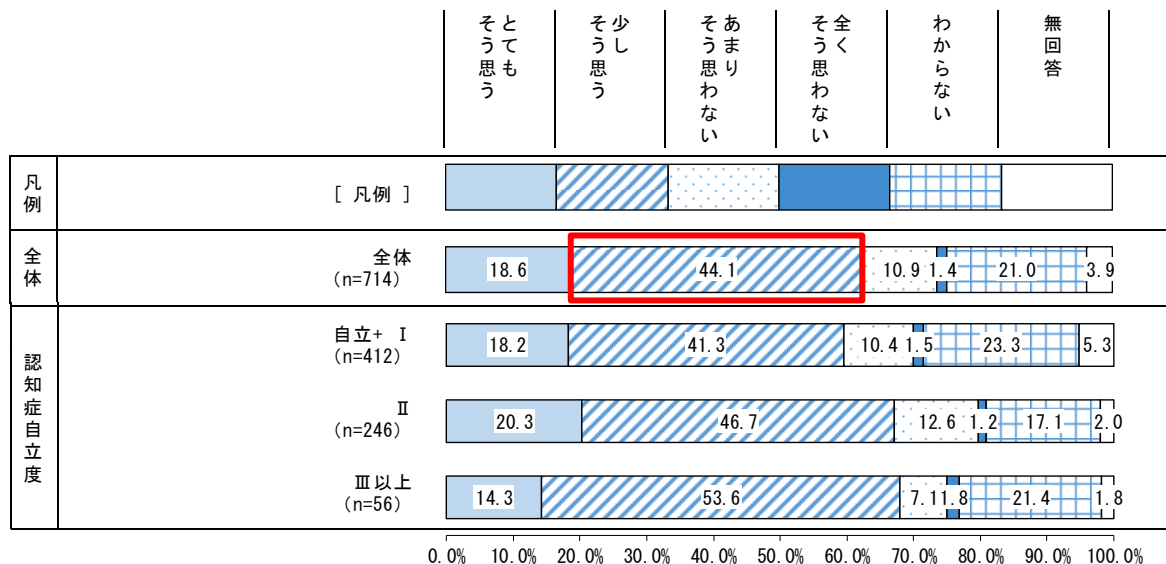
【認知症等でも暮らしやすい地域像】



- C問9 あなたは、家族などの身近な人が、認知症を正しく理解していると思いますか。
(ひとつだけ○)

○ 身近な人の認知症理解に対する認識について、「少しそう思う」が44.1%で最も高く、次いで「わからない」が21.0%、「とてもそう思う」が18.6%となっています。

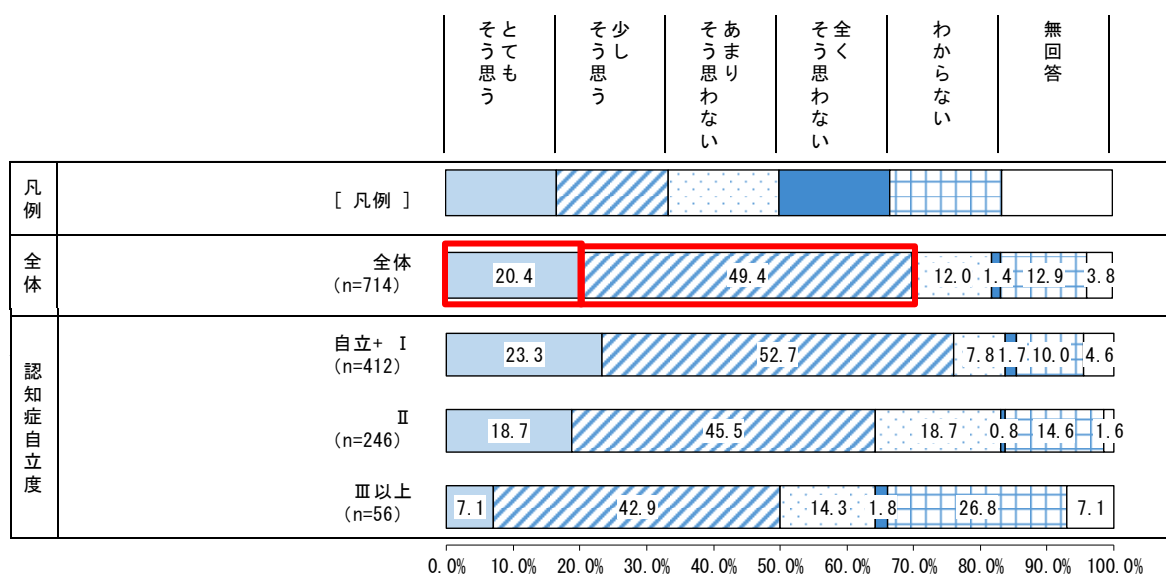
【身近な人の認知症理解に対する認識】



- C問12 あなたは、自分の思いが尊重されていると思いますか。(ひとつだけ○)

○ 本人の意思尊重の実感について、「少しそう思う」が49.4%で最も高く、次いで「とてもそう思う」が20.4%、「わからない」が12.9%となっています。

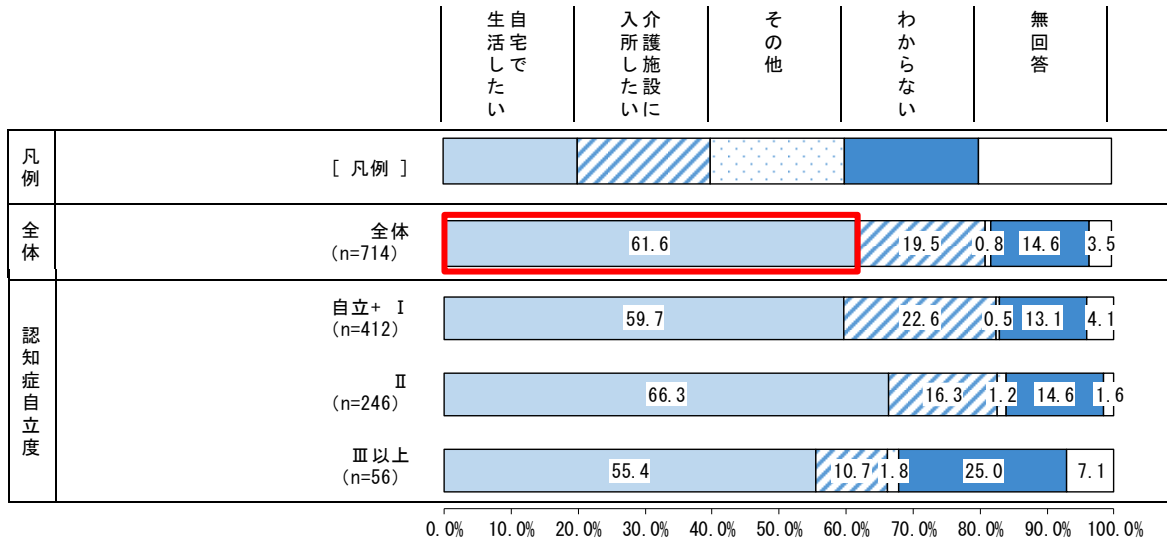
【本人の意思尊重の実感】



- C問13 あなたが、もの忘れが増えたり、判断能力が低下した場合、どこで生活したいですか。(ひとつだけ○)

○ 能力低下時の希望居住場所について、「自宅で生活したい」が 61.6%で最も高く、次いで「介護施設に入所したい」が 19.5%、「わからない」が 14.6%となっています。

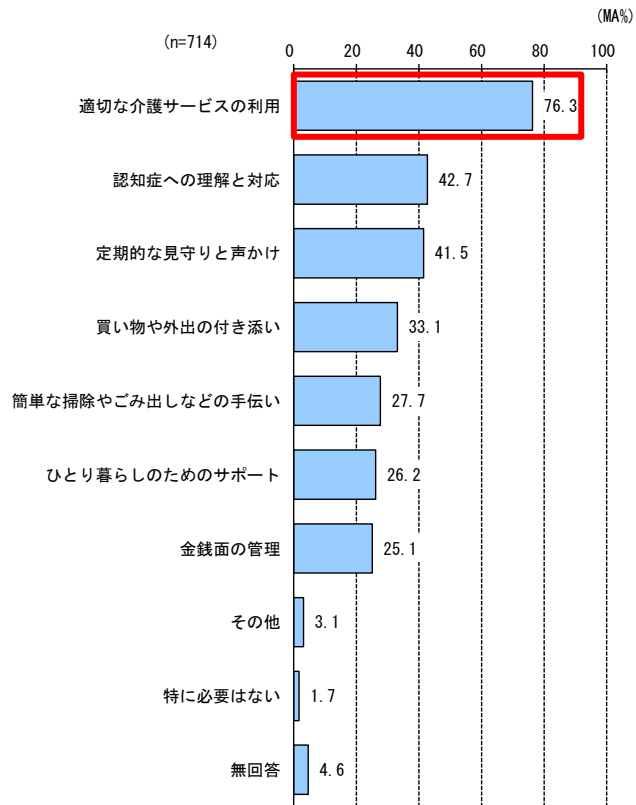
【能力低下時の希望居住場所】



- C問14 あなたが、もの忘れが増えたり、判断能力が低下した場合、自宅で暮らしていくためには、どのようなことが必要になると思いますか。(いくつでも○)

○ 能力低下時に自宅で暮らすための条件について、「適切な介護サービスの利用」が76.3%で最も高く、次いで「認知症への理解と対応」が42.7%、「定期的な見守りと声かけ」が41.5%となっています。

【能力低下時に自宅で暮らすための条件】

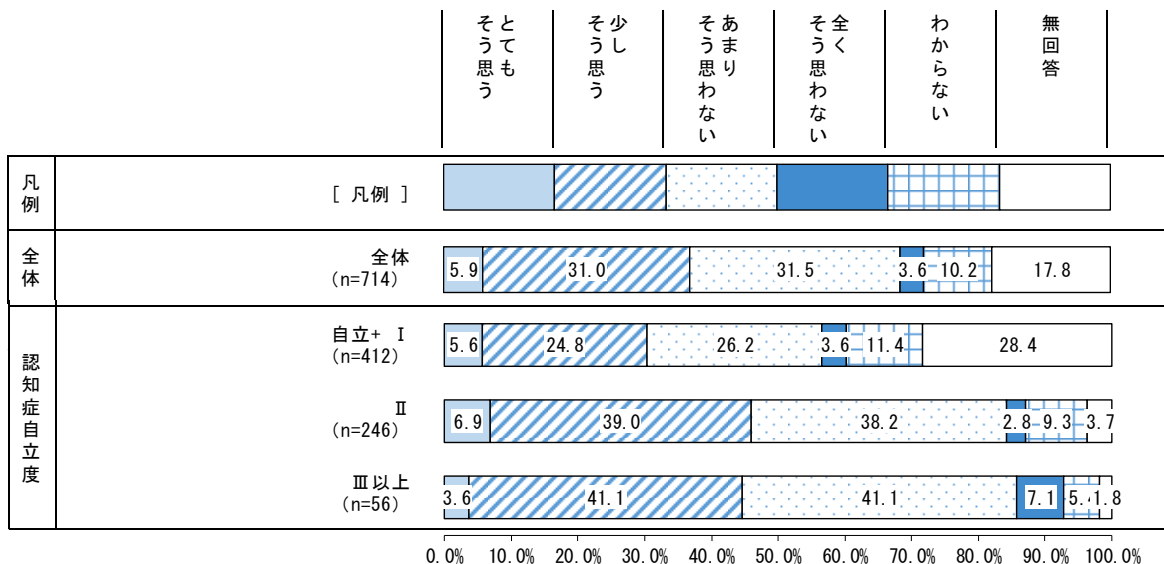


主な介護者の方について

- D問1 あなたは、周りのすべての人が、認知症を正しく理解していると思いますか。(ひとつだけ○)

○ 社会全体の認知症理解に対する認識について、「あまりそう思わない」が 31.5%で最も高く、次いで「少しそう思う」が 31.0%、「わからない」が 10.2%となっています。

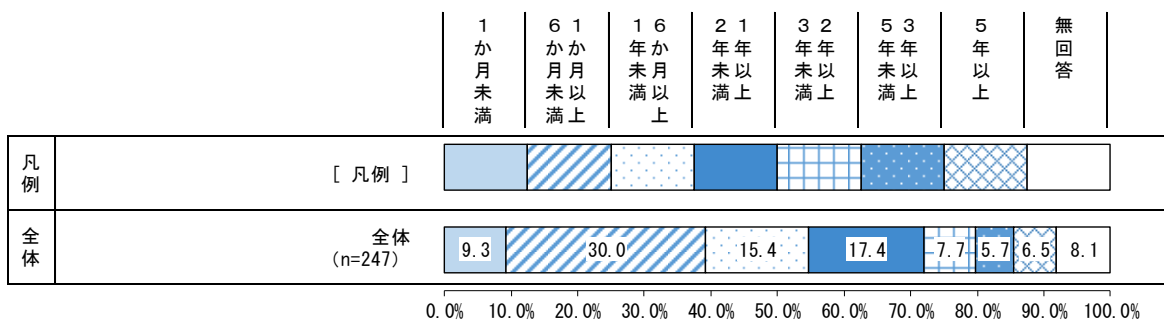
【社会全体の認知症理解に対する認識】



- D問9 あなたが、本人のことを専門機関（医療・介護等相談機関）に相談したのは、本人が認知症ではないかと思い始めてからどのくらいの期間ですか。(ひとつだけ○)

○ 疑い始めてから専門機関へ相談するまでの期間について、「1か月以上6か月未満」が 30.0%で最も高く、次いで「1年以上2年未満」が 17.4%、「6か月以上1年未満」が 15.4%となっています。

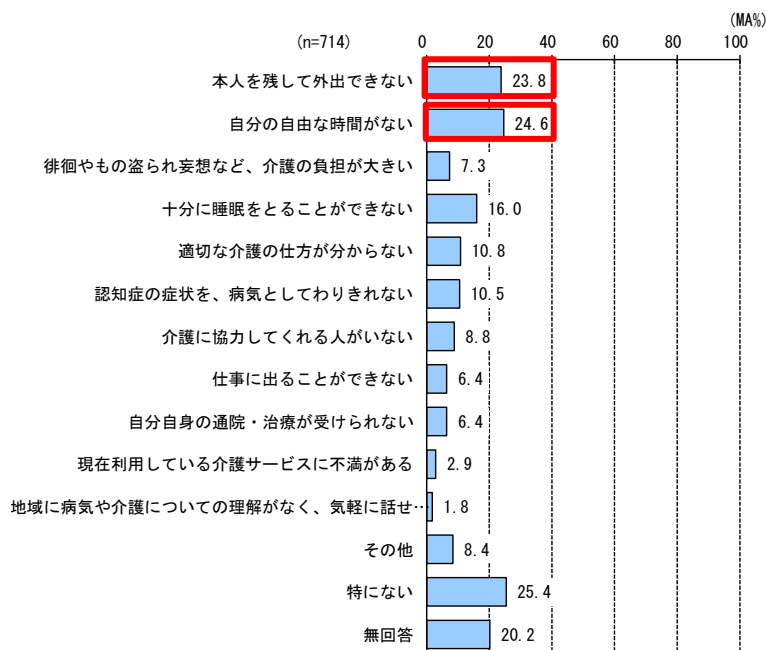
【疑い始めてから専門機関へ相談するまでの期間】



- D問13 あなたは、本人の介護をしていて困ること、負担に感じることはありますか。(いくつでも○)

○ 介護における困りごと・負担感について、「特にない」が25.4%で最も高く、次いで「自分の自由な時間がない」が24.6%、「本人を残して外出できない」が23.8%となっています。

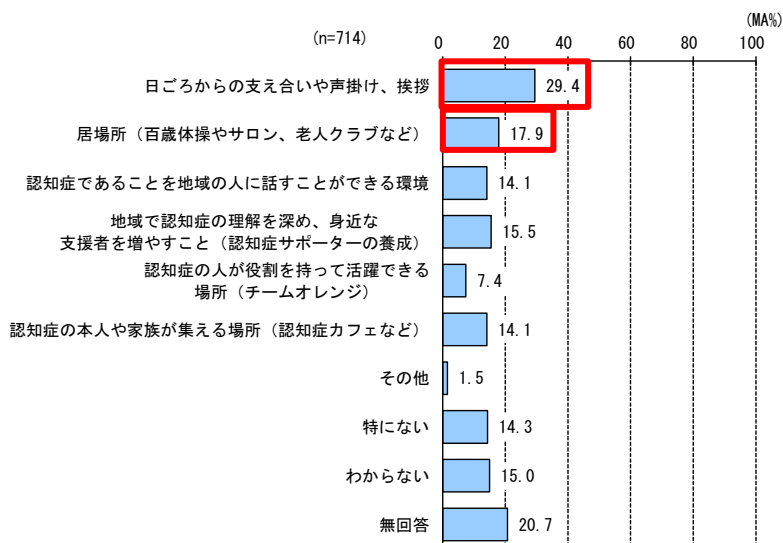
【介護における困りごと・負担感】



- D問15 あなたが、本人の介護をしていて、身近に地域であつたらいいなと思うものはありますか。(いくつでも○)

○ 地域にあれば良いと思う介護支援について、「日ごろからの支え合いや声掛け、挨拶」が29.4%で最も高く、次いで「居場所（百歳体操やサロン、老人クラブなど）」が17.9%、「地域で認知症の理解を深め、身近な支援者を増やすこと（認知症サポーターの養成）」が15.5%となっています。

【地域にあれば良いと思う介護支援】



●D問 16 あなたは、今後、守山市が認知症施策を進めていく上で、特にどのようなことに重点を置くべきだと考えますか。(3つまで○)

○ 守山市が重点を置くべき認知症施策について、「家族の精神的な負担を緩和する取組」が44.5%で最も高く、次いで「認知症に関する相談窓口や病院、介護保険サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み」が28.2%、「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組」が26.9%となっています。

【守山市が重点を置くべき認知症施策】

